

衆院選きょう投開票

コロナ・経済対策争点

自公VS.野党共闘

第49回衆院選は31日投開票を迎える。長期政権を築き「1強」といわれた自民・公明の与党に、立憲民主や共産などの野党が候補者を一本化して挑む構図で、多くの選挙区が接戦にもつれ込んだ。与野党の党首は30日、各地で最後の訴えをして12日間の選挙戦を終えた。

今回の衆院選には、現行の小選挙区制が導入された1996年の衆院選以降で最少の1051人が立候補。小選挙区289、比例代表176の計465議席を争う。選挙戦では新型コロナウイルスへの対応や、格差是正を含む経済対策などが主な争点となった。

自民党総裁の岸田文雄首相は「与党で過半数(233議席)を勝ち取る」に掲げ、接戦区を中心に街頭演説をこなし、30日の東京・品川のJR大井町駅での最終演説では、「私は経済成長を成し遂げ、その果実を皆さんの所得給料として届け、分配する」と強調。「今回の選挙は、未来選択選挙だ。誰がしっかりと

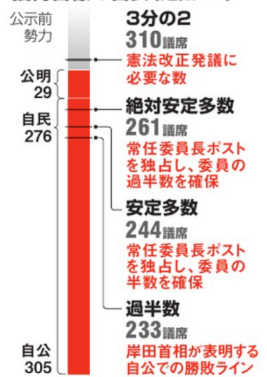
「政治を変えることができるのは、私ではない。私は変えるための選択肢を示せるだけだ」と強調。「変える力はあなたにある。この国の未来を切り開くには、あなたの力が必要だ」と呼びかけた。

共産の志位和夫委員長は千葉市内での街頭演説で、「アベノミクスは自己責任を押し付けて、この国の貧困と格差を広げた。政治モラルが地に落ちた。岸田首相はそういう政治を引き継ぐと言っている。自民・公明の政治はもう終わりにしよう」と批判した。

国民民主の玉木雄一郎代表は茨城県日立市内で「一人づつに投資する。教育国債を財源に、教育や科学技術に今の倍お金を出して、もう一度『技術立国・日本』を取り戻したい」と訴えた。

一方、日本維新の会は与党や野党共闘とは距離を

与党の公示前勢力と獲得目標の目安(定数465)



き、94選挙区に候補を擁立した。松井一朗代表は最終日、大阪・難波の街頭演説で、大阪を取り組んだ「役所改革」を挙げ、「昭和のままの今の行政運営、役所の規模、規制を変える。永田町・霞が関に維新スピリッツをもった政治家を増やさない」と訴えた。

31日の投票は、終了時間を繰り上げる一部地域を除き午後8時まで。同日深夜から11月1日未明にかけて大勢が判明する見通しだ。(榊原一生)

党派別の候補者数	合計 定数465	小選挙区 定数289	比例区定数176		勢力前
			単独	重複	
自民	336	277	59	251	276
立憲	240	214	26	213	109
公明	53	9	44	0	29
共産	130	105	25	15	12
維新	96	94	2	94	11
国民	27	21	6	21	8
れいわ	21	12	9	12	1
社民	15	9	6	9	1
N党	30	27	3	8	1
諸派	23	9	14	0	0
無所属	80	80	-	-	12
計	1051	857	194	623	460

公示前勢力は、選挙前の議席数(欠員4、希望の不出馬人は除く)



候補者らの最後の訴えを聞く有権者たち。30日午後7時19分、東京都内、本社へりから、内田光撮影(画像の一部を加工しています)